

株式会社 阿波農産さん

徳島県 実施日：12月11日～13日の2泊3日



研修の概要



こちらの研修では、【JA東とくしまさま】と【COOP自然派さま】との協力の元、徳島県小松島市の【NPO法人とくしま有機農業サポートセンターさま】(以下、サポートセンター)の施設をお借りして、【阿波農産】の浜田社長を講師に迎え、3日間の有機農法の研修を実施致しました。この記事では、その研修内容と当事者のインタビューを掲載いたします。

研修受け入れ農家

株式会社 阿波農産 代表者 浜田 孝俊 様



法人協会会員の鶏糞と廃菌床を利用した堆肥「大地のサブリ」を使用し、地域資源を有効活用し、畑本来の自然のサイクルを取り戻す生物多様性農業を行っています。田んぼでも農薬、化学肥料を削減し、水田がツルのえさ場として復活し、ナベヅルなどが越冬するようになっています。たくさんの生物の中で育った野菜は、一般的な野菜よりもミネラルを含み、硝酸イオンが少なく、糖度、ビタミン、抗酸化力が多い美味しい野菜になっています。多様な生き物が育む田んぼ、畑を取り戻す農法が結果として農産物の品質を高める。そんな農業を推進しています。

研修参加者

辰馬 琴翠 さん



現在、大学2年生。幼少の頃よりお母様が果物：キウイを美味しそうに食べている姿を見て、漠然とキウイ農家になりたいと思っていた。実際は身近に農家をやられている方がおらず、農業に関わることなく、全くの別分野の大学に進学。どうにかして、農業に関われないかと考えている際にジモベジワークスを見つけて、ワーカー登録。有機農法に特化した農業研修の募集を観て、勇気を出して応募した。

研修生：辰馬さんへのインタビュー

-- 初日にどんなことを学びましたか？

「はじめに、土の重要性について教えていただきました」

初めて現地についたとき、阿波農産の浜田社長、サポートセンターの方がお出迎えをして頂きました。研修初日はオリエンテーションということで、講義室で座学を教わりました。



私に有機農法の知識が全くないことを把握された浜田社長が、まず初めに説明したのは有機農法において【土】の重要性でした。土の状態を見ながら、何を育てていくかを決めなくてはならないこと。土がすべてであるということ。実際に色々な土を見せてもらいました。写真では見てもわからない土の柔らかさなどを実際に触って体感しました。いかに農業において土が重要か、それを見定めなければならないということが分かりました。

また、有機農法がどうい作物を作るのかを実感する為に、有機農法で作られたカブを持ってきてもらいました。生のまま食べてみたら、本当に甘くて、おいしくてびっくりしました。野菜の【見た目】についても話が及びました。カブを例に、葉っぱの緑が濃いと窒素が多すぎるということ。売れる【見た目】と美味しい【見た目】は違うということ。PH値のことなど、軽く数字にも触れながら説明して頂きました。【土】の重要性が、その後どんな結果【実り】を与えるのかを非常にわかりやすく体感させてくれました。



-- 2日目の実習はどのような内容でしたか？

「経営として重要な販売経路についても教えていただきました」

サポートセンターで有機農法を学ばれて、卒業して就農された2名の農主さまに2日目から付き添っていただきました。最初は何を聞いていいかわからないぐらいでしたが、知識が増えるごとに質問が湧いてきて、常に訊くことが出来る状態でした。



販売経路についても質問をしたいと思うようになりました。

というのも、阿波農産さまでは土地と販売経路が確保されていて、農法だけを教えてくれるサポートセンターではなく、その先の販売についてもきちんとした考えがあり、聞けば答えてくれる環境でした。

例えば、阿波農産さまでは【ツルをよぶお米】という無農薬米を作っていますが、販売時に生産者として名前が載る時とそうでない時があることや、そういう時にはどうしたらリピートしてもらえるかなどを教えてくださいました。



-- 研修を終えて、どのような感想をお持ちですか？

「農業というものがより俯瞰した視点で見れて、自分がどういう農業がしたいか？をより具体的に考えられた」

私は、大学では全く別の分野を学んでいます。農業大学には通っていません。

今回の研修に行って思ったことは、農家さまはそれぞれ独自の方法で農業を展開しているのだと思いました。

農法についてのこだわり、何を育てるのか？どのような経路で販売するのか？加工品でどのようなものを作るのか？この研修に参加する前までは、農作物の販売は必ずJAを通さないといけないか思い込んでいましたので。農業というものは思っている以上に自由さがあり、工夫ができ、自分の夢の追及が出来るのだと、今回の研修で俯瞰して農業を観れたので、そう思えるようになりました。

いま、大学で学んでいることも分野が全く違うけど農業で役に立つのかもしれないと思ってきました。

-- 今回の研修が辰馬さんの今後にどのような形で活かそうですか

「これからの夢として、農業に取り組む人生もありかも。 とよりリアルに思えるようになりました」

子供ころからの途方もない夢だった、【キウイ農家になる！】というものに挑戦したいという気持ちが再燃しました。
今住んでいる場所は山が多い環境で、平地が少なく、厳しい環境だと思います。
まずは家庭菜園をしたり、ビニールハウスなどを使いつつ、栄養素などでブランディングしながら、作って売ってみたいという気持ちです。

狭い範囲で自分が丁寧に作ったものを誰かに食べてもらい、喜んでもらえることを想像する毎日です。
農家様の中にはネットだけで販売しているケースもあると知り、大量に育てるだけが農場じゃないということがわかりました。
阿波農産さまから言われた

「まずは、自分が出来る範囲で始めてみたらいい。」という言葉に救われました。

小さな農地からでも、家庭菜園でも、ペランダでの栽培でも、立派な農業であると。
まずは始めてみる。今回の研修で得たものは、何よりも【有機農法に本気で取り組んでいる方と繋がれた】ということでした。

受け入れ農家：浜田代表へのインタビュー

-- なぜ、今回ジモベジワークスを通じて、研修にご協力いただけたのでしょうか？

これは農業において全国的なことかもしれませんが、
地元で農業をやりたい・有機農法を学びたいという方は少ないんです。

また、最近の新規就農者は他県から来るパターンも多くあり、実際、農業を継続して、定着しているのは他県から来た農家の方が多かったです。なので、今回は県外の人に宣伝ができるということで、やってみようと思いました。

-- 今回の3日間の研修について、各日の内容をお教えてください

【研修内容 1日目：オリエンテーション】

サポートセンターを卒業して、1年目・2年目の卒業生を紹介して、この研修センターがどういうものなのかを見せて、研修生の意欲をわかせて、何をしたいのか？何を学びたいのか？という気持ちを確認しました。

【研修2日目：カブの収穫、カブの洗浄、パック詰め、出荷までの流れ】

カブの収穫から、出荷までの流れを一通り体験させました。

研修生の要望が、農家が育てた野菜をどこまで農家で管理を行っているのか知りたいという要望に応える形で実施しました。

【研修3日目：農作物の加工と販売 農家の様々なビジネス形態】

本当は観光でも良かったんですが（笑）。研修生の要望で、農作物を加工している農家を観てみたいとなったので、そこで紹介したのが、Narumi Farmさま (<https://kamikatsunooyasai.com/>)



育てたミニトマトの余りをジャムにしたり、晩茶を作ったり、農業の仕事がない時期(いま)はドーナッツを作って販売したりと様々な取り組みをしている。高地栽培にも力を入れており、最近、無肥料での有機農法も始めている女性の農家様。

こちらの農家さまに出向き、午前中からお昼過ぎまで見学をしました。談笑の中から、いろんな質問をしていき、取り組みを見せていきました。

-- 最後に、今回の研修の感想をお願いします。

3日間の作業では、体験程度しかできなかったが、
その分、多くのコミュニケーション、会話、質疑応答をすることが出来ました。
実は1年間の研修ではほとんどが作業で、コミュニケーションを密に取れる機会が少なかったりするんです。

この3日間で研修生が知りたいこと、学びたいことを提供できたこと、また研修生の人となり、姿勢、素養を知ることができて、研修生への導きも示しやすくなったと感じています。